

完了報告書

記入年月日 2026年2月16日

採択団体名 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会

■事業概要

基本情報													
事業名	こどもと地域を守るための防災TKB教育 ※TKB:快適なトイレ(T)、温かい食事をつくるキッチン(K)、安心して休めるベッド(B)												
事業内容	事業内容①:保育施設における災害対応の考え方の整理 事業内容②:「こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 事業内容③:「こどもと地域を守る防災TKB勉強会」の開催 事業内容④:「こどもと地域を守るための防災TKB」啓発リーフレットの作成												
事業背景	これまでの災害において、不衛生で不便なトイレ環境、冷たく栄養の偏った食事、雑魚寝は、避難者の健康を害し、災害関連死につながる事が指摘されてきた。能登半島地震において、外部支援に時間を要することが課題となり、その場に備えることと、地域で支えあうことの重要性が再認識された。石川県穴水町の幼保連携型認定こども園では、園の運営において日頃から重視している「衛生管理」「食事」「情報共有」「ソーシャルワーク」の取り組みが災害時においても力を発揮し、避難生活を乗り越えた。 都市部においては、保護者が帰宅困難になることも十分に考えられるため、引き渡しまでの間、保育施設において園児の健康を守ること、そのための地域でこどもを支え合う仕組みが必要である。												
コミュニティ 設立の経緯	上記の事業背景を受けて、これまでの教訓を園関係者と共有するとともに、園だけでなく保護者や地域住民にも伝え、それぞれの役割分担を明確にして実践的な備え、共助の体制を地域で推進することは急務であると感じ設立に至った。												
本事業に関する過去の 取り組み内容	なし												
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会 委員 7名 特定非営利活動法人日本トイレ研究所:事業全体の企画、進行支援 3名 												
全体スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月</td> <td>・港区と打合せを行い事業実施についての実施内容およびモデル園を選定</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・モデル園の現状の備えと立地状況の把握 ・被災経験のある園に対してヒアリングを実施</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>・「第1回 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 (港区、識者、保育施設従事者等)</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>・「こどもと地域を守る防災TKB勉強会」の開催 ・勉強会の開催結果のとりまとめ ・啓発リーフレットの作成</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>・「第2回 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 ・啓発リーフレットを港区内の保育施設に郵送</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実施内容	9月	・港区と打合せを行い事業実施についての実施内容およびモデル園を選定	10月	・モデル園の現状の備えと立地状況の把握 ・被災経験のある園に対してヒアリングを実施	11月	・「第1回 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 (港区、識者、保育施設従事者等)	12月	・「こどもと地域を守る防災TKB勉強会」の開催 ・勉強会の開催結果のとりまとめ ・啓発リーフレットの作成	1月	・「第2回 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 ・啓発リーフレットを港区内の保育施設に郵送
時期	実施内容												
9月	・港区と打合せを行い事業実施についての実施内容およびモデル園を選定												
10月	・モデル園の現状の備えと立地状況の把握 ・被災経験のある園に対してヒアリングを実施												
11月	・「第1回 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 (港区、識者、保育施設従事者等)												
12月	・「こどもと地域を守る防災TKB勉強会」の開催 ・勉強会の開催結果のとりまとめ ・啓発リーフレットの作成												
1月	・「第2回 こどもと地域を守るための防災TKB教育協議会」の開催 ・啓発リーフレットを港区内の保育施設に郵送												

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に上下水道等のライフラインが途絶した際にも保育園等で園児の健康を守り、地域でこどもを支えあうまちづくりの実現に向けて、災害時における快適なトイレ(T)、温かい食事をつくるキッチン(K)、安心して休めるベッド(B)に着目し、各施設における防災力を向上させるとともに、近隣の施設や園と連携する共助の取組みを推進すること
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なるタイプのモデル園を対象に現地調査及びヒアリング調査を実施することにより、保育園が抱える災害時対応の課題や懸念点などを整理することができた ・ 被災経験のある保育園に災害時対応をヒアリングすることにより、保育施設における災害対応の考え方を整理することができた ・ 行政、識者、保育施設従事者に参加してもらうことにより、保育施設における災害対応のあり方を多角的に検討することができた ・ 取組みの成果をリーフレットに落とし込み、港区内の保育施設に港区の保育部局と連携して周知することにより、T(トイレ)K(キッチン)B(ベッド)の備えと地域連携の重要性を発信することができた
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの主体(保育従事者、保護者、地域住民など)が、どうすれば災害時に日常と近い環境で過ごすことができ、こどもを守ることができるか、自ら考えるきっかけとなること ・ 今後の災害時対応を検討するにあたり有意義な情報を得ること ・ 災害対応の考え方や備蓄を見直すきっかけとなり、その先の取組みとして各施設でできる地域連携を検討すること
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時対応を事前に検討しておくことの重要性を改めて認識するきっかけとなった ・ 地域の人々や保育従事者が課題を共有することができた、今後の災害対応を検討する上での材料を得る機会となった ・ 保育施設従事者は、日ごろ防災に関する悩みを抱えていながら、誰に聞けばよいか分からない状況であったが、防災部局との接点ができ、日ごろの疑問の解消や区としての考え方を知る機会となった
展開できる 知見やノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育部局と防災部局は、日常的に連携することはないが、保育施設における災害時の地域連携を考える上では連携は不可欠であるため、そのほかの関係者を含め重ねて協議する場を設けることが重要である ・ 園での防災を考える際の起点としてこどもを守るための T(トイレ)K(キッチン)B(ベッド)をテーマに掲げることで、具体的な検討が可能になる
コミュニティ防災教育の重要な観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性に応じて取組みを進める必要がある。そのためには、行政や保育施設従事者、地域住民の能動的な参加が不可欠である。事前準備としては、まずはともに考えることができるテーマを絞り込み、課題を共有し、共通意識を持つことが重要である
残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携の取組みを進めるにあたっては、まずは土台となる各施設における防災力の向上が不可欠である。現段階では、各施設における備えを検討・改善していく段階であるが、同時にこどもを守る施設同士での連携が実践的かつ効果的であることが明らかになった。各施設における備えを充実させながら、共助による補完のあり方を検討していく必要がある ・ その際に、災害対策本部とのやり取りを行うことも想定し、公立と私立等という垣根を越えた連携が重要であり、地域ごとに情報を共有する方法も検討する ・ こどもに関わる施設との連携をコアにしなが、他の施設・団体との連携に拡充する方策も検討する

■事業内容

事業内容① 保育施設における災害対応の考え方の整理		
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる保育施設における災害対応の課題を整理する ・保育施設における災害対応の考え方を整理する 	
事業内容①目標 (参加者側)	一般参加なし	
事業内容① 実施内容 『被災経験のある 保育施設に対して ヒアリングを実施』 (実施日:9/25)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な取り組み内容 被災経験のある保育施設に災害時の対応や課題について、T(トイレ)、K(食事)、B(睡眠)の視点で、ヒアリングを実施した ■ 成果(提供者) 経験者にヒアリングを実施することにより、課題や実効性のある備え、体制について、知見を深めることができた 	
事業内容① 実施内容 『モデル園の現状の備えと立地状況の把握(現地調査)』 (実施日:10/21)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な取り組み内容 異なる性質のモデルとなる保育施設 2 施設選定し、立地状況などの基礎情報と現状の備えや災害対応の考え方、課題に感じていることなどを確認した ■ 成果(提供者) モデルとなる保育施設における災害対応の考え方や課題を整理することにより、事業内容②で協議すべき事項の方向性を見出すことができた 	
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発生した課題や失敗点 なし 	
事業内容①を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なタイプの保育施設があることを想定し、モデル園の選定にあたっては独立型と共同住宅型の異なる性質の保育施設を選定した。 	
事業内容① 残課題等	なし	

事業内容② 「こどもと地域を守るための防災 TKB 教育協議会」の開催

<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設において、災害時に園児等を守るための具体的な備え・対策、地域連携のあり方を検討する 	
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<p>一般参加なし</p>	
<p>事業内容② 『第 1 回協議会の 開催』 (実施日 11/10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な取り組み内容 「事業内容① 保育施設における災害対応の考え方の整理」での内容を踏まえ、モデルとなる保育施設において、具体的な備え・対策を検討した ■ 成果(提供者) <ul style="list-style-type: none"> ・ おむつのサブスクリプションの活用など、新たな取組や考え方のアイデアを出すことができた ・ 地域連携を進めるにあたっては、各保育施設での自助がある程度必要であり、そのための備えについて方針をまとめることができた ・ 地域連携にあたっては、園それぞれの備えの強化と近隣の保育施設との横のつながりによる相互支援が有効性を確認できた 	<p>—</p>
<p>事業内容② 実施内容 B 『第 2 回協議会の 開催』 (実施日 1/6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な取り組み内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業内容①～③で取りまとめた内容に関する啓発リーフレットについて、内容や情報量、デザイン等について検討した ・ 本資料を広く、適切に周知するために有効な方法について検討した ■ 成果(提供者) <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設にしっかりと情報を届けるためのリーフレット案について、議論することができた ・ 各保育施設における備えの強化の次段階としての地域連携の考え方について、議論を深めることができた 	
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発生した課題や失敗点 なし 	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設従事者や行政の保育部局及び防災部局に加え、保育分野と建築分野の識者にも参画いただくことにより、実際の施設で避難生活をおくことを前提に様々な視点で協議できるように努めた 	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>なし</p>	

事業内容③ 「こどもと地域を守る防災 TKB 勉強会」の開催	
事業内容③目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設における防災意識を向上および地域連携の取組みを推進すること
事業内容③目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデル園での取り組みや考え方など、協議会で整理された内容を聞くことにより、災害対策の必要性を感じ、自身の施設での対策の推進につなげること
事業内容③ (実施日:12/16)	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ■ 具体的な取り組み内容 事業内容①・②で取りまとめた内容を、港区の保育施設運営・従事者、保育施設を利用する未就学児とその保護者、保育施設の地域関係者等が学ぶための「こどもと地域を守る防災 TKB 勉強会」を開催した ■ 成果(提供者) <ul style="list-style-type: none"> ・ 港区内の約 120 の保育施設に案内を郵送し、会場 5 名、オンライン 35 名(35園)の参加があった ・ 協議会で協議した内容を参加者に共有するほかに、モデル園以外の施設における課題や地域連携を進めるにあたっての考え方や要件などを把握することができた </div> <div style="flex: 1; text-align: right;">  </div> </div>
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発生した課題や失敗点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者がオンライン参加に偏ってしまった ■ 乗り越えた方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 区立の施設を中心に、行政と連携しながら、声掛けを継続した
事業内容③を実施する上で工夫した点	より多くの参加者を募るために、対面とオンラインのハイブリッド開催とした。
事業内容③ 残課題等	なし

事業内容④ 「こどもと地域を守るための防災TKB」啓発リーフレットの作成	
事業内容④目標 (提供者側)	・ 保育施設における防災力の底上げや保護者との共通意識の形成、地域連携の推進を推進すること
事業内容④目標 (参加者側)	一般参加なし
事業内容④ (実施日:1月)	<p>■ 具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設における防災力の底上げや保護者との共通意識の形成、地域連携を推進すること目的に、事業内容①～③で取りまとめた各保育施設で園児の健康を守るために必要な T(トイレ)K(キッチン)B(ベッド)の備えと地域や保護者との連携の重要性を広く普及させるための啓発リーフレットを作成し、港区内の 226 保育施設に定員数分を発送した ・ 港区からも区立保育園に対しては、メール等でデータの提供、案内を実施した <p>■ 成果(提供者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「備えについて分かりやすく記載されている」や「職員個々が意識を持つのに役立つ」などの反応があった ・ 今後、地域連携を推進するにあたり、前提となる各施設における防災意識の向上に効果があった
事業内容④を実施する中で発生した課題や失敗点	■ 発生した課題や失敗点 なし
事業内容④を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手に取ってもらいやすい親しみやすいデザインや情報量を意識して制作した ・ 地域の防災力底上げにあたっては、保護者との共通意識の形成も不可欠であるため、職員分への配付加え、各家庭への配付もお願いした
事業内容④ 残課題等	・ ウェブ等を活用した継続した周知



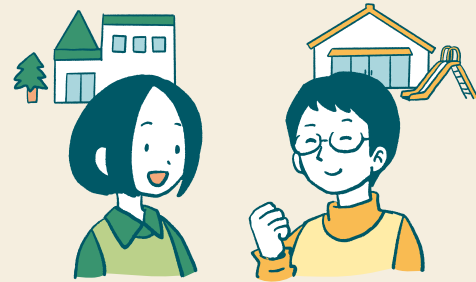
■参考資料

- 01 こどもと地域を守るための防災TKB 教育協議会 委員名簿
- 02 被災経験のある保育施設へのヒアリング結果まとめ
- 03 モデルとなる保育施設の現地調査結果まとめ
- 04 第1回 協議会議事要旨
- 05 こどもと地域を守る防災TKB 勉強会 開催案内
- 06 こどもと地域を守る防災TKB 勉強会 配付資料
- 07 こどもと地域を守る防災TKB 勉強会 意見交換の議事要旨
- 08 第2回 協議会議事要旨
- 09 啓発リーフレット

地域と連携しよう！

■ 近隣の施設や園と連携する

近隣の保育・子育て施設、自治会などと、日頃から関係を築いておきましょう。散歩の際に声かけしたり、災害時の対応について情報交換しておくことで、発災時の協力が円滑になります。



■ 外出時の対応を決めておく

散歩や園外活動中に災害が発生した場合に備え、園との連絡手段、避難場所を明確におきましょう。



保護者に伝えよう！

■ 保護者に園児の状況を伝える

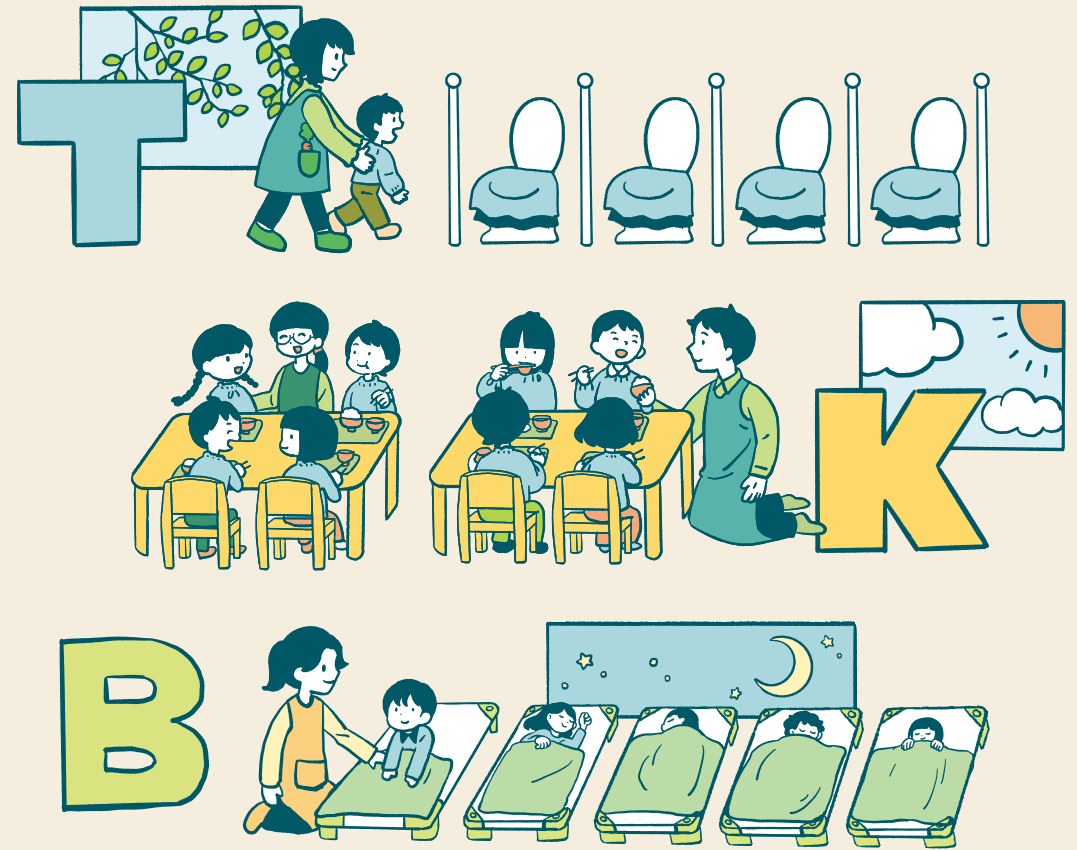
保護者の不安を軽減するため、安全が確保できたら園児の状況を保護者に伝えましょう。災害時の園の対応をあらかじめ伝え、連絡手段を決めておくことが効果的です。

港区の子どもを守る！

防災

保育施設の備え

T (トイレ・排泄) K (キッチン・栄養) B (ベッド・睡眠) を整えて園での避難生活に備えよう！



災害に備えて、いまから確認しよう！

事前に情報を確認しておくことで、発災時に行動しやすくなります。下記のサイトを確認するほか、緊急時連絡先一覧（園医など）を用意しておきましょう。備蓄品の保管場所や数量などがわかるチェックリストを作ると、職員間で共有しやすく、不足品もわかりやすくなります。

■ 港区防災ポータルサイト

<https://city-minato.my.site.com/>

緊急情報や避難情報、避難所の開設状況などの情報が掲載されます。震度4以上の地震が発生したときや警報発表時等に、災害時モードに切り替わります。



■ 帰宅困難者への港区一時滞在施設

<https://www.city.minato.tokyo.jp/chiihibousai/kitakukonnai.html>

帰宅困難者を一時的に受け入れる施設です。

災害時に帰宅困難者が園に来られた際は、こちらをご案内することができます。



■ 携帯トイレの使い方ポスターなど

<https://www.toilet.or.jp/pickup/bosaitoilet/>

携帯トイレの使い方ポスターや、安心して使うことができる携帯トイレ製品の「規格適合製品リスト」などを掲載しています。

(日本トイレ研究所 HP)



港区では、大きな災害が起きて公共交通機関が止まった場合、3日間の帰宅抑制（職場にとどまること）を事業者の責務としています。保護者が迎えに来られない場合を想定し、園にとどまるための備えが必要です。ライフラインが止まったとき、園児と職員の健康を守るために大切なのが「快適に使えるトイレ（T）」「温かい食事をつくるキッチン（K）」「安心して休めるベッド（B）」の備えです。本リーフレットの内容をきっかけにして、園の備えについて話し合ってみましょう。

TKBから保育施設の備えをみなおそう

施設のどこで・どのように使うかを確認し、発災時に行う手順やルールを決めておくことが大切です。実際に使って、気づくことが、実践的な備えにつながります。以下を例に、園での備えについて話し合ってみましょう。

T トイレ 排泄

災害時には、断水等で水洗トイレが使えなくなります。トイレが不便・不衛生だと、水・食料を控える原因になります。携帯トイレを備えましょう。

■携帯トイレを備える

トイレを使う子ども・職員には、便器にとりつけて排泄する袋タイプの「携帯トイレ」が役立ちます。最低3日分(園にとどまる日数)を備えてください。日頃のおむつもローリングストックできると効果的です。



$$\begin{matrix} \square & \times & \square & \times & \square & = & \square \\ \text{子どもと} & & \text{トイレに行く回数} & & \text{備える日数} & & \text{必要な数} \\ \text{職員の人数} & & & & & & \end{matrix}$$

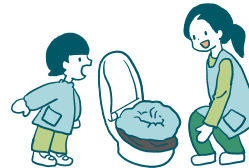
■照明・衛生用品を備える

停電するとトイレは真っ暗になります。両手が自由になる置き型の照明が便利です。手指消毒などの衛生用品やおしり拭きは、様々な用途で有効活用できます。



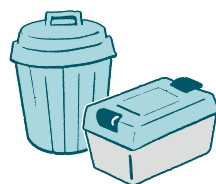
■子どもと一緒に練習する

携帯トイレなどの災害時対応を日頃から練習して慣れておくと、災害時の子どもの不安を減らすことにもつながります。



■使用済み携帯トイレの保管場所を決めておく

ごみ収集の再開まで衛生的に保管できるよう、ふた付きのごみ箱など保管場所を決めておきましょう。使用済みのおむつ入れを活用することもできます。



K キッチン 栄養

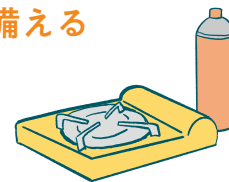
冷たい食事が続くと食欲がわきません。最初はすぐに食べられるものを提供し、時間経過とともに温かい食事を出せるようにしましょう。

■提供の順番(献立)を考えておく

災害時は食材や調理環境に限られるため、どの順番で、何を提供するかを事前に決めておくことで、混乱を防ぎます。ずっと同じ献立が続かないようにすること、甘いものを用意しておくことも大切です。また、備蓄している食品を子どもが試す機会を作り、どうしても食べられない場合は変更を検討してみましょう。

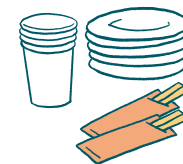
■カセットコンロ・ボンベを備える

停電やガス停止時でも調理や湯沸かしができるよう、カセットコンロとボンベを十分な本数備えておきましょう。



■使い捨ての容器を備える

断水していて洗いができない場合を想定して、使い捨ての容器・カトラリーを備えておきましょう。ラップをお皿に敷く方法もありますが、使用時にラップが破れることもあるので、使い捨て容器があると安心です。



■食べる場所・寝る場所をわけて衛生を保つ

ライフラインが止まると、食べこぼしの掃除などを普段通りに行うことが難しくなります。衛生を保つために、食べる場所と、寝る場所を分けることが効果的です。部屋数が足りず、同じ部屋の中で食事・睡眠をとる必要がある場合も、できるだけエリアを分けるようにしましょう。

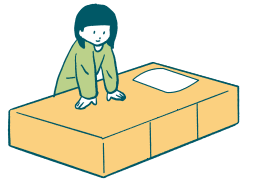


B ベッド 睡眠

子どもと職員が安全で衛生的に休める環境を整えましょう。

■子ども・職員の寝具を備える

園での避難生活が必要になった場合には、使い慣れた子どもの寝具を活用しましょう。職員には段ボールベッド等を備えることが大切です。冬場の寒さ対策も考慮しましょう。



■安全な睡眠スペースを確保する

転倒・落下の恐れがある備品等を明確にし、職員全員が把握できるようにしましょう。大きなけがにつながるものから固定すると対策が明確になります。固定できないものはけがを防ぐ方法を話し合きましょう。普段から危険の少ないスペースを作っておくことが必要です。



大きなけがにつながるものから固定

■暑さ・寒さ対策を考える

暑さ・寒さ対策のために電力確保ができるか確認しましょう。非常用発電機は、どのくらいの電化製品を何時間動かせるのか試して、優先的に使うものを決めておきましょう。エアコンが使えなくても、スポットクーラーなら使えることがあります。複合施設内やビル内に設置されている保育施設では、建物全体で非常用電源を備えている場合、自施設(園)が確保できる電力量を確認しておくことが必要です。

